

平成 30 年度 青少年赤十字国際交流事業 シンガポール派遣

実施報告書

平成 30 年 7 月 26 日（木）～31 日（火）



日本赤十字社神奈川県支部
神奈川県青少年赤十字指導者協議会



目次

1	青少年赤十字国際交流事業基本計画	2
2	交流事業の経過	3
3	派遣団名簿	4
4	派遣行程	5
5	派遣団員報告書	
	渡邊 藍理	2 3
	黒川 歩未	2 7
	片桐 春咲	3 0
	松尾 日菜	3 5
	三嶋 葉月	3 9
	吉村 茉莉花	4 2
	須賀 春菜	4 5
	邊見 亮子	4 7
	内田 直人	5 1



**平成 30 年度日本赤十字社神奈川県支部
青少年赤十字国際交流事業基本計画**

1 交流の目的

青少年赤十字の掲げる三大実践目標の一つである「国際理解・親善」の具体的な取り組みとして、青少年赤十字メンバー並びに指導者が姉妹赤十字社・赤新月社メンバーと人的交流・親善を図ることにより、赤十字の世界性を理解するとともに、異文化での生活や研修で得た知識・経験をその後の県内の青少年赤十字活動に活かし、青少年赤十字事業の発展・推進に寄与することを目的とします。

2 事業の概要

(1) 派遣期間：平成 30 年 7 月 26 日（木）から 7 月 31 日（火）6 泊 7 日
※翌年度以降も同姉妹社との派遣・受入事業を隔年で複数年継続予定

(2) 派遣先：シンガポール共和国（シンガポール赤十字社）

(3) 派遣者：青少年赤十字メンバー 6 人
青少年赤十字指導者（教員）1 人
通訳（神奈川県赤十字国際奉仕団） 1 人
日本赤十字社神奈川県支部職員 1 人
計 9 人

(4) 派遣先での主な活動内容：

- シンガポール赤十字社・関連施設の見学
- 青少年赤十字メンバーおよび指導者とのホームステイを通じた文化交流
- 青少年赤十字登録校の訪問・交流
- 文化施設等の見学 他

交流事業の経過

平成 29 年 11 月 21 日

日本赤十字社（東京都港区）に日本赤十字社神奈川県支部より「平成 30 年度国際交流事業基本計画」を提出、本社からシンガポール赤十字社へ交流事業の打診

平成 30 年 2 月 5 日

本社とシンガポール赤十字社の合意を経て、「平成 30 年度国際交流事業基本計画」が正式に承諾

～4 月 11 日

青少年赤十字登録中学校・高等学校から参加者を募集

4 月 22 日

神奈川県青少年赤十字指導者協議会および日本赤十字社神奈川県支部による派遣者選考会を開催（支部）

4 月 24 日、26 日

派遣者（JRC メンバー・通訳・引率指導者、支部職員）の決定

5 月 27 日

保護者説明会および第 1 回事前研修会を開催（支部）

6 月 10 日

第 2 回事前研修会を開催（横浜 Leaf 献血ルーム、支部）

7 月 7 日

追加事前研修を開催（支部、神奈川県ライトセンター）

7 月 16 日

第 3 回事前研修会を開催（プレゼンやパフォーマンスの最終確認）

7 月 26 日～31 日

シンガポール共和国にて青少年赤十字国際交流事業を実施

8 月 11 日 青少年赤十字小学校 LTC 並びに青少年赤十字高等学校 LTC にて報告

9 月 2 日 事後研修会を開催（支部）

10 月 7 日 高等学校青少年赤十字連絡協議会 定例会にて報告

派遣団名簿

青少年赤十字メンバー 6人

神奈川県立二俣川看護福祉高等学校	高校3年	<small>わたなべ</small> 渡邊	<small>あいり</small> 藍理 ※
※参加者リーダー			
横浜富士見丘学園中等教育学校	中学3年	<small>くろかわ</small> 黒川	<small>あゆみ</small> 歩未
神奈川県立二俣川看護福祉高等学校	高校2年	<small>かたぎり</small> 片桐	<small>はるさ</small> 春咲
神奈川県立二俣川看護福祉高等学校	高校2年	<small>まつお</small> 松尾	<small>ひな</small> 日菜
神奈川県立横須賀明光高等学校	高校2年	<small>みしま</small> 三嶋	<small>はづき</small> 葉月
洗足学園高等学校	高校2年	<small>よしむら</small> 吉村	<small>まりか</small> 茉莉花

通訳 1人

神奈川県赤十字国際奉仕団	<small>すが</small> 須賀	<small>はるな</small> 春菜
--------------	-------------------------	--------------------------

引率指導者 1人

神奈川県立藤沢総合高等学校	<small>へんみ</small> 邊見	<small>りょうこ</small> 亮子
---------------	--------------------------	---------------------------

日本赤十字社神奈川県支部職員 1人

事業部 青少年・ボランティア課	青少年係長	<small>うちだ</small> 内田	<small>なおと</small> 直人
-----------------	-------	--------------------------	--------------------------

計9人

派遣行程

平成30年度青少年赤十字国際交流事業日程表

日付	行動予定		宿泊先
7/25 (水)	AM	—	機内
	PM	—	
	N	支部集合、事前研修、羽田空港へ(NH843 羽田00:40発)	
7/26 (木)	AM	シンガポール6:40着、シンガポール赤十字社キャンプサイト到着	赤十字キャンプサイト
	PM	赤十字障害者の家見学・文化施設見学	
	N	自由	
7/27 (金)	AM	学校訪問(Northbrooks secondary school)	ホームステイ
	PM	学校訪問(Compassvale secondary school)	
	N	シンガポール赤十字社で歓迎会、ホームステイプログラム	
7/28 (土)	AM	ホームステイプログラム	ホームステイ
	PM	ホームステイプログラム	
	N	ホームステイプログラム	
7/29 (日)	AM	ホームステイプログラム	YWCA Fort Canning Lodge
	PM	赤十字First Aider On Wheelの活動見学・文化施設見学	
	N	自由	
7/30 (月)	AM	血液銀行見学	YWCA Fort Canning Lodge
	PM	文化施設見学	
	N	シンガポール赤十字社で送別会	
7/31 (火)	AM	NH842 シンガポール11:00発	—
	PM	機内	
	N	羽田19:10着、到着後解散	

日程 1 日目

7月25日(水)		移動
16:30	全員 日本赤十字社神奈川県支部集合 直前研修会	
17:00	出発式 出発式終了後、引き続き直前研修会	
18:00～19:00	日本赤十字社神奈川県支部出発	電車 バス
22:00	羽田空港国際線ターミナル着 夕食	
0:40	NH843便 シンガポール行き出発	航空機

<出発式・出発>

日赤神奈川県支部に集合し、出発式を行いました。その後、日程やプレゼンテーションや出し物の最終確認、シンガポールでプレゼントするお土産を各自のキャリーケースに入れ、羽田空港に向けて出発。26日 0:40 に日本を発ちました。



【支部で行った出発式】



【抱負を語る参加メンバー、職員さんの前で緊張した～】

日程 2 日目

7月26日(木)	
6:40	全員 シンガポール・チャンギ国際空港第2ターミナル着 空港に到着後、専用車にて赤十字社キャンプサイトへ 赤十字社キャンプサイトにチェックイン&休憩 朝食
10:00	「赤十字障害者の家」訪問
12:30	「ハッピージョイ」にてチキンライスの昼食
14:00	リトルインディア散策
18:00	「オーチャードカフェ」にて夕食
19:00	シンガポールのナイトライフを観光
21:00	赤十字キャンプサイト着 ミーティング、就寝
宿泊	赤十字キャンプサイト

6:40 にシンガポール チャンギ空港に到着し、赤十字キャンプサイトに立ち寄り、その後、社会福祉施設の見学をしました。



【シンガポール空港に到着】

シンガポール赤十字社が運営する「赤十字障害者の家」は、重度肢体や知的障害者が入所施設です。7歳～70歳代の約100名が入居しており、参加メンバーは職員さんに、「どの様な方が入所しているのですか?」、「どのくらいの期間、入所している方々なのですか?」など積極的に質問をしていました。この入居施設は約40人が1部屋（男女別々）で生活しており、設備もケアの方法も日本との違いを感じました。しかし、障害により不便を抱えている人に寄り添い支えることは、人道の実現であり、赤十字の理念は世界共通であると感じました。



【赤十字キャンプサイトにチェックイン】



【「赤十字障害者の家」見学】



【昼食でチキンライスを食べました
食欲旺盛の参加メンバー！一瞬で無くなりました】

＜リトルインディアを観光＞

シンガポールの名所である、リトルインディアは賑やかな歴史を感じる地区。生気に満ちた文化から、意外性に満ちたショッピングまで、シンガポールのインド系コミュニティの文化を感じることができました。

＜シンガポールのナイトライフを観光＞

マーライオンパークやマリーナベイ・サンズ、ヘリックスブリッジなどシンガポールの観光地を訪れました。

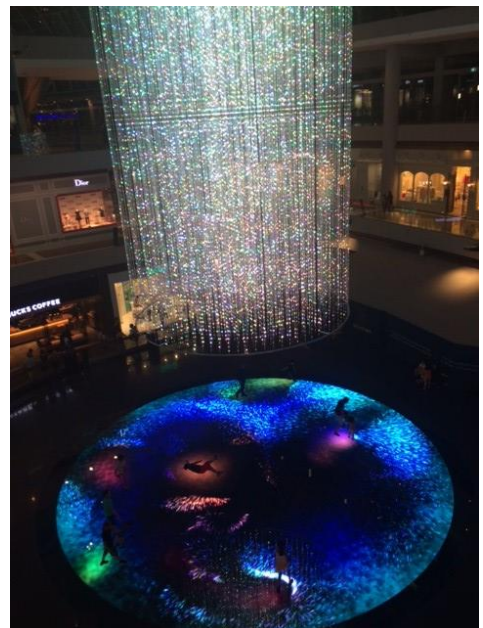
マーライオンは思ったほど大きくなく、多くの観光客で溢れていました。

徐々に暗くなり訪れたのがマリーナベイ・サンズやヘリックスブリッジ、アートサイエンス・ミュージアム等、七色に輝く夜景を見ることができました。

驚いたのは、ボランティアさんのエスコート力でした。先に先に動いて下さり、多文化共生【マーライオンやマリーナ・サンズと共に一枚】の文化が自然と身についているのか、慣れない日本人メンバーに優しく接してくれるなどボランティアさんの姿勢から学ぶべきところが多かった。滞在初日でもあり、メンバーは緊張している様子でしたが、身振り手振りでシンガポールのボランティアさんとコミュニケーションを取っていました。



【七色に輝く夜景 素敵でした】



【チームラボの常設展示】

日程 3 日目

7月27日(金)	
7:30	全員 プラタコーナーにて朝食、荷物のパッキング
10:00	キャンプサイト出発、Northbrooks secondary schoolへ
10:30	学校訪問「Northbrooks secondary school」 ープレゼンテーションやダンス等交流プログラム ロッククライミング体験
12:30	「カーペンター29」にて飲茶の昼食
15:00	学校訪問「Compassvale secondary school」 ー授業見学
17:30	「シンガポール赤十字本社」にてウェルカムパーティ
20:00	パーティ終了後、青少年赤十字メンバーはホストファミリーと 一緒に各家庭へ ミーティング（スタッフ）、就寝
宿泊	(メンバー) ホームステイ宅 (スタッフ) YWCA Fort Canning Lodge

<朝食>

朝食は赤十字キャンプサイト近くのインディアンムスリム レストランへ行きました。店の看板やメニューは英語表記が多く、メンバーはメニューを理解することに苦戦していましたが、シンガポールに来てから 2 日目にもなり自ら店員さんに話しかけ、日本では見かけない食事や飲み物に挑戦していました。どの料理もおいしくいただきました。



【見慣れない食事にも挑戦！】

<学校訪問 Northbrooks secondary school>

昨年 11 月に実施した、国際交流事業の際に日赤神奈川県支部に訪問した指導者が教鞭をとる学校へ訪問しました。学校に到着して早々、互いの文化についてや学校紹介のプレゼンテーションがあり、参加メンバーも日本の文化や青少年赤十字についてのプレゼンテーションを行いました。その後、互いにパフォーマンスを披露もしました。

校舎内見学をした後、ロッククライミングを体験しました。学校に設置されているのが驚きました！メンバー全員、体験もさせてもらいました。上まで行けたメンバーもあり、とても貴重な経験をする事ができました。「私の学校にもあったら、いいのになあ！」とつぶやくメンバーもいました。



【ロッククライミングを体験】



【初めてプレゼンテーションに少し緊張】



<学校訪問 Copassvale secondary school>

3年前の国際交流事業の際に日赤神奈川県支部に訪問したシンガポール赤十字社職員の出身校を訪問し、校舎内の見学と授業を体験しました。授業では搬送についてシンガポールの生徒たちが日本のメンバーにレクチャーし共に学びました。続けて、「コミュニケーション」をテーマに、シンガポールの生徒が日本のメンバーに色々なお題に沿って質問する授業を体験しました。次々に英語で問いかけられ、最初は分からないことだらけでしたが、一人ひとりの問いかけに対し、メンバーは丁寧に聴き答えていました。その後、日本のメンバーからプレゼンテーションを行いました。

また、独立記念日が近いため、学校内で行進や整列、敬礼などの訓練を行って生徒を見ることができました。



【搬送について学びました】



【次々に話しかけられました】



【プレゼンにも段々慣れてきました】



【中庭が広くステージで一枚】

＜歓迎パーティー＞

シンガポール赤十字社の指導者や JRC メンバーが集まり歓迎会を催していただきました。日本メンバーは日赤の事業紹介や文化紹介（ダンス）を行いました。



【記念品をいただきました】



【歓迎会でスピーチをする邊見先生】



【日本文化の紹介（ダンス）】



【日本の活動紹介（英語でスピーチ）】



【参加者集合写真】



【シ赤ボランティアによる活動紹介】

日程 4日目

7月28日(土)		移動
	メンバー 終日ホームステイプログラム	
宿泊	(メンバー) ホームステイ宅 (スタッフ) YWCA Fort Canning Lodge	

この日、メンバーは終日ホームステイ先で過ごしました。リバーサファリに行ったメンバーや募金活動の様子を見に行ったメンバー、街中でショッピングをしたメンバー、名物のドリアンに挑戦したメンバーなど様々でした。

また、ホームステイ先では、家庭内の会話も中国語や英語という様々な状況下で過ごしたようです。



【かわいい風船 募金活動の様子】



【街中のフードコートで食べました】



【大きなスーパーに行きました】



【ホームステイ先の家庭】

日程 5 日目

7月29日(日)		移動
	午前 ホームステイプログラム (朝食はホームステイ宅)	
13:00	昼食	
14:00	シンガポール赤十字社 本社集合	
14:30	本社出発、イーストコーストパークへ	バス
15:00	First Aider On Wheels の活動見学	バス
17:30	「カフェロッジ」にて夕食	バス
19:00	夕食 Garden By The Bay(植物園)」観光	バス
20:30	YWCA Fort Canning Lodge 着 到着後、ミーティング 就寝	バス
宿泊	全員 YWCA Fort Canning Lodge	



【ホームステイから戻り 笑顔が絶えない様子】

<First Aider On Wheels の活動見学>

シンガポール赤十字社が公園内に設ける救護所での活動を見学しました。家族連れや若者で賑わう、大きな公園では、自転車やローラースケートの転倒でけがをする人が発生します。その様な事故に対応するための救護体制や手当についての説明をしていただき、自転車を使つてのパトロールの様子を見学しました。パトロール用の自転車と緊急用の自転車（マウンテンバイク）が用意してある様子。



【パトロールについて説明】



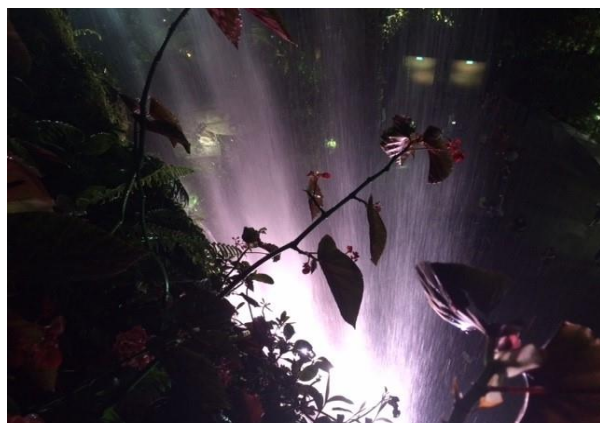
【救護所の様子】



【救護バッグの中身も確認】

< Gardens By The Bay 観光 >

Gardens By The Bay と言えば巨大な人工ツリーと 2 つのガラスドーム。ガラスドームの内部は高山地帯の気候を再現し、高山植物を楽しめるクラウドフォレストと永遠の春の世界を楽しめるフラワードームになっていました。色々な植物や花、滝などがあり、一日ずっと眺めていられる観光スポットでした。



日程 6 日目

7月30日(月)		移動
7:45	全員 朝食（ホテルにて）	
9:00	血液銀行へ出発 血液銀行訪問	バス
13:00	昼食 「ストレーツチャイニーズ」にてペラナカンの昼食	バス
14:30	カンポングラム研修	バス
18:00	フェアウェルパーティー（本社）	バス
20:30	YWCA Fort Canning Lodge 着 到着後、ミーティング	徒歩
22:00	就寝	
宿泊	全員 YWCA Fort Canning Lodge	

< 血液銀行見学 >

血液銀行を見学し、シンガポール赤十字社がおこなう血液事業について学びました。血液銀行は日本でいう献血ルームにあたり、シンガポール国内の輸血用血液製剤の確保を行っています。シンガポールでは、献血推進から受付までを赤十字が担い、採血、検査、製造と医療機関への供給を国が担っているそうです。ここでは日本との違いを学ぶことができました。



【シンガポールの血液事業について学びました】



シンガポールの献血では、採血の際に局部麻酔をしてから、本採血に移行することや本採血で用いる針が日本より太いことに青少年メンバーは興味を示していました。また、献血推進のため、処遇品も1回ごとのものだけでなく、複数回献血者向けの処遇品も用意されており、日本と同じように若年層に献血してもらえる工夫がされていました。



【血液銀行の職員と一枚】



【献血処遇品】

＜フェアウェルパーティー＞

滞在中にお世話になった、ホームステイファミリーや学校の先生、ユースメンバー、シンガポール赤十字社の職員が集まり、フェアウェルパーティーを行いました。青少年メンバーが披露したダンスをともに踊り、盛り上がりました。



【別れを惜しみつつ、みんなで踊ったりし交流しました】



【リーダーの渡邊さんからお礼の言葉】

【派遣メンバーとシ赤担当者】



【お世話になった皆さんと全体写真】

日程 7日目

7月31日(火)		移動
7:00	全員 朝食（ホテル）	バス
8:00	ホテル出発	
9:00	シンガポール・チャンギ国際空港第2ターミナル チェックイン	
11:00	NH842便 羽田空港行き出発 昼食	航空機
	夕食	
19:10	羽田空港国際線ターミナル着	
20:00	解散・終了	

派遣最終日。全員が元気に日本に帰国しました。



派遣団員報告書

・障害者の家

シンガポールに到着してから初めに障害者の家に向かいました。

この施設は1階から3階が政府の機関で4階から8階が障害者の家となっていて、総勢75名のスタッフの方がいます。まず、4階が事務とデイケアセンター、5階が男性の部屋、6階が女性の部屋、7階が子どもの部屋、8階がフリーとして使われています。



障害者の家では、3つのシステムがあります。1つ目は障害を抱えてここに長く入所する長期入所。2つ目は家族が用事で忙しく、なかなかお世話が出来ない際に最短1日から最長1カ月まで入所することのできるレスパイトケア。3つ目は朝、障害者の家に来て、遊んだり、リハビリや食事をしたりして夕方には自宅に帰るショートステイというシステムで、9時から17時送迎を行っています。また、長期入所の方のことをここでは患者や利用者とは呼ばずに「住人」と呼んでいます。



女性の部屋と男性の部屋の壁は、無地ではなく、カラフルな花や虹などが描かれていて、施設という縛りが和らいでいました。また、月に1回ボランティアの医師が来て、診察してくれます。これまでは、スタッフが腰を痛

めながら、住人の移送を行なっていましたが、チャリティーのお金で1000万円程の移送器具を購入し、楽になったそうです。

このような障害の方と接することが面倒くさいと言う人がいると施設管理者のケナフさんから聞きました。私なら同じ人間であり、その方も自分から望んで障害者になったわけではないので、みんなが協力して、親切に優しく接するべきだと思います。ですが、そのように嫌がる方がいる中で、せめて自分だけでもその方に共感して、助け合うことが大切なのではないでしょうか。

・FIRST AID POST

私たちは4日目にFIRST AID POSTに行きました。これは、公園で傷病者が出た場合に、迅速に対応するというボランティア活動です。この活動はボランティアの為、資格がなくても「人の役に立ちたい」という気持ちがあれば誰



でも参加することができます。実際に事務所の中を見学すると、AEDや応急手当用のバッグが設置されていました。特にバッグの中身を見た際に、消毒液や絆創膏、テープ、ガーゼの他に湿布や目薬などが入っていることに驚きました。日本の応急セットではあまり見たことがないからです。いざという時に使うことが出来るため、用意しておくことは大切だと思いました。

私はこの活動が日本にも必要だと感じました。なぜなら、子どもが公園で遊んでいたりと、お年寄りの方も交流の場として公園を使っていたりするのをよく見かけるからです。特に夏場は、擦り傷などの怪我だけでなく、熱中症の症状を訴える人も増えるからです。症状が出てから何もしないで救急車を待つよりも、応急処置を行いながら待つ方が助かる率は格段と上がるからです。ボランティアとしてこの活動に参加することにより、新たな知識を吸収することができ、迅速に動けるようになるなど、ボランティアをする側にもされる側にもメリットがあり、とても良い活動だと思います。ただ、私は救急法などの資格を取得しておくことで、人々の信頼がもっと増えるのではないかと考えました。

・ホームステイ

私は中学1年生の女の子の家にホームステイをしました。弟が2人とお母さん、お父さんの計4人家族でした。ウェルカムパーティーを終え、2人で電車に乗り自宅に向かう時は英語を使って話すことで頭がいっぱいでした。自宅に着いてからも、とても緊張してソワソワしていました。でも、家族が温かく迎えてくれ、お父さんが「今日からここが私の家」と思って過ごしていいのだからね」と言ってくれたのを今でも覚えています。



翌日の朝、1箇所目にサイクリングもでき、ビーチのあるコニー島に行きました。海はとても綺麗で、この日は晴れていたマレーシアが見えました。2箇所目に2人でION オーチャードという、日本でいう「ららぽーと」のような大きな複合型ショッピングモールに行きました。ここでは、お土産を買ったり、他愛もない話をしたりして盛り上がりました。3箇所目にハジレーンというストリートに行きました。



ここは、建物にとっても派手なペイントがしてあり、様々なショップが並び、とても興味深い場所でした。それから、一度家に帰り、ホームパーティーをしてみんなで楽しく

過ごしました。

4箇所目は家族全員でマリーナベイサンズのライトアップを見に行きました。写真を撮ったり、後悔のないくらいたくさん英語で話したりしながら観光をしました。車の中ではみんなで合唱するくらい仲良くなりました。翌日の朝食後、集合まで近くのショッピングモールでショーを見たり、弟の欲しいものを見にいたり、本当の家族のように一緒に過ごしました。そして、家族全員で本社へ行き、“頑張っ”と見送ってくれました。

私は今回のホームステイで家族の温かさを感じたり、国も言語も違うけれど、ジェスチャーや知っている単語を並べたり、翻訳機能を利用して伝えようとすれば、相手も分かろうとしてくれるということを実感しました。お別れをしたくないほど、とても幸せな時間を過ごすことができました。

・ Compassvale 中学校訪問

私たちは、Northbrooks 中学校と Compassvale 中学校を訪問しました。2校ともバスを降りる時からとても緊張しました。ですが、Compassvale 中学校のみんなが拍手で私たちを迎えてくれて、とても心が和みました。はじめに学校案内をしていただきました。私が学校案内の中でとても驚いたのは、3D プリンターを使い、自身で考えた作品を作り、展示してあることとジムがあることでした。

次に、みんなとコミュニケーションを取ったり、搬送の練習に参加したりしました。みんながとっても積極的で、私たちが座っていると周りを囲んで来て、緊張など忘れてしまうほど話すことができました。搬送の練習では、私が習った搬送の方法とは少し違い、戸惑いました。安全性に欠ける部分が多々あり、これをされたら“不安だな、怖いな”と思い、そこは日頃の練習で一つ一つ丁寧に行うのが大切になってくると感じる場面でした。その点では、日本は講習等もあり、発展していると感じました。

次に、私たちのプレゼンテーションを行い、みんなが相槌を打ってくれて、嬉しかったのを覚えています。また、シンガポールでも MTC があると聞きました。日本は2泊3日の宿泊研修で、シンガポールは障害者の家にボランティアに行ったりする活動のことを MTC というそうです。ただ、チームワークを大切にしながらみんなで赤十字のことを学ぶことは共通でした。私は国によって活動の内容が全然違うことを改めて実感しました。最後に記念撮影をしてみんなとはお別れをしました。

・ 気をつけてほしい点

私は今回のシンガポール派遣でこの6つの点を注意するべきだと思いました。

1つ目は、個人で行動しない。この派遣はチームとして派遣されているのであり、個人で派遣されているわけではありません。1人が勝手な行動をすることによりみんなに迷惑がかかります。チームで派遣されているということを忘れず、行動をすることが大切です。

2つ目は、困った際は誰かに相談をする。様々な性格の人が集まった派遣チー

ムで、しかもいつもとは違う環境下で過ごしているためストレスや不安なことが溜まりやすくなります。それが原因で嫌になったり、やるべきことが投げやりになってしまったりすることは実際に自分も経験しました。もしも、困ったら誰か1人でも話せる人を探して、全部話してみるといいと思います。私もそうすることで、不安や悩みが吹っ切れて派遣に集中することができました。

3つ目は、この派遣の全体目標・個人目標を意識する。まず全体目標は、チーム全員で成長することや目的を達成するために設定しているので、意識しながら行動するのは当たり前だと思います。個人目標はこの派遣で自分を少しでも成長させるために設定しています。苦手なことやこれを克服したいと思ったことを含め、今後の活動に活かせるように、自己の成長ができるように意識して行動すると少しでも変わることができると思います。

4つ目は、自分の立場を考える。派遣に行かせていただいている身なので内気にならず、積極的に行動すると思います。今後の活動の発展のためにも、自分が今どうしなければならないのか、どうした方が良いのかを考え、行動に移すと良いと思います。

5つ目は、周りをよく見て行動する。顔色が悪いな、なにか困っていそうだななど、些細なことでも構わないので、周りをよく見て普段との違いを把握しておくことも大切です。何かあってからだと遅いです。少し普段と違うな？と思ったらすぐに声をかけてあげることがチームとして、人として大切なことだと思います。

6つ目は、常識の範囲で行動すること。行動だけではなく、服装なども同じです。自分の日頃の常識の範囲と他人の常識の範囲は違います。誰もが常識の範囲と思えるような行動や服装、その他自分で考えて日常生活を送るべきだと思います。これは派遣期間だけではなく、事前研修も同様です。

この派遣は楽しむこともとても大切です。しかし、あくまで神奈川県代表としての派遣なので、けじめをつけるべきところと楽しむところをしっかりと区別して参加すると思います。

・感想

今回のシンガポール派遣で、異国の人も、様々なツールを使い、コミュニケーションがとれること、また困っている人がいたら些細なことでも気にすることが大切なことだと学びました。コミュニケーションを取ることは簡単なことではないけれど、積極的に話すことで相手も反応してくれて、より良いコミュニケーションを図ることができました。また、私は普段自分のことに集中すると、手がいっぱいになるとあまり、周りを見ることができませんでした。周りをよく見て行動するよう意識していたので、自分のことだけでなく、周りのこともできるようになりました。他にも、成長したことはありますが、大きく変化したことはこの2つです。今回の派遣で知識として学んだことや、心理的に成長したことを、今後の活動を活発にする為に、たくさん活用して行きたいと考えています。私はこの派遣に参加することができて本当に良かったと思いました。

横浜富士見丘学園中等教育学校 中学3年 黒川 歩未

・日本での事前研修

シンガポールに行く前に、横浜にある献血ルームや二俣川にあるライトセンターに見学に行き、実際に話を聞いて、初めて知ることがたくさんありました。そして、もっと日本の赤十字について詳しくなり、シンガポールの赤十字の方たちに伝えたいと思うようになりました。また、シンガポールでプレゼンテーションをするため、パワーポイントを作成し、日本の文化について調べたり、英語に直したりなど多くのことをしました。研修の時間があまりない中、最高のプレゼンテーションに仕上がりました。私はパワーポイントを完成させられるかどうか心配でしたが、家族にも助けてもらいながら作り終える事が出来ました。パフォーマンスでは用意するものがあったり、浴衣の着方やダンスを覚えたり、少し大変な部分はありませんでしたが、メンバー全員と協力する事ができ、とても嬉しく思いました。

・シンガポールの赤十字について学んだこと

私はあまり海外の赤十字の事について知りませんでした。そのため、お話を聞いてびっくりする事もありましたし、なるほどと感じる部分もありました。まず、障害者の家に行き、お話を聞き、見学をしました。スタッフの方はみんなボランティアだと聞いてとても驚きました。血液銀行では話を聞くだけではなく実際に献血している人の声も聞くことができ、日本には無いストレスボールも見ることができました。



・中学校訪問

今回、2つの中学校に行きました。1つ目の学校ではボルダリングを初めて体験しました。怖かったけれど、応援もあり、とても楽しかったです。次に校内見学をし、様々な質問にもきちんと答えてくれて意思疎通ができた時の嬉しさを感じました。2つ目の学校では、一緒に実習をしたり、お話したりして交流を深めました。趣味なども合い話がとても弾み、違う言語でも、ジェスチャーや写真を見せたりして通じることとても実感しました。このとき、最初から、自分は英語が話せないと思うのではなくチャレンジすることが大切だと学びました。

・ホームステイ

ホームステイは私にとって初めてでした。そのため、しっかりホストファミリーと話せるかなと心配していましたが、同い年の女の子がいて、動物好きということでとても仲良くなりました。また、シンガポール動物園にも連れて行ってくれました。私はホームステイを通してシンガポール人の優しさを感じました。なぜなら、動物園に行くためにホストマザーが「日本人は抹茶が好きでしょ」と言って水筒を持たせてくれたり、毎食、シンガポールの伝統的な食事を食べさせてくれたり、車で送ってくれたり、大好きな桃を買ってきてくれたり、初めてのドリアンを食べさせてくれたり、全てを上げることが出来ないくらいたくさんのお世話をしてくれて、家族のように接してくれて本当に嬉しかったです。もし、日本でホームステイをすることがあれば、おもてなしをしたいと思いました。



・今後の活動

私はシンガポールで学んだことを広めるために学校のHPを作成したり、文化祭で展示をしたりしたいです。また、展示だけではなく、友達に広めたり、またその友達から広めてもらったり、沢山のやり方があると思います。地道かも知れませんが、こつこつと取り組むことが大事だと思います。何日、何週間、何年かかっても少しでも多くの人にシンガポールの事を知ってもらえれば、この派遣が意味のあるものになると思います。

今、私は中学生なので、高校生になって広める機会はまだ沢山あると思います。これからも一つ一つの機会を大切にしていきたいです。もちろん中学生だからこそ出来るという事もあると思うので、探していきたいです。

・感想

最初は中学生 1 人でとても心配で、事前研修会でもすごく大人しかったことを覚えています。メンバーが何度も声をかけ一緒に話に混ぜてくれたおかげで不安もあまり感じなくなり、シンガポールが楽しみだと思えるようになりました。シンガポールに行ってから、沢山の人に会い、交流しているうちにメンバーから「すごく変わったね」と言われました。私にとってそれは嬉しいことでした。なぜなら、ちゃんと素の自分を出せて、メンバーと笑い合うことが出来たからです。このメンバーで行くことができ素晴らしい思い出になりました。

神奈川県立二俣川看護福祉高等学校 高校2年 片桐 春咲

「赤十字活動」「ホームステイ」「観光」「感想」この4つの項目に分けて、シンガポール派遣の報告をします。

・赤十字活動

シンガポールの赤十字活動は、どの活動からも様々なことを学ぶことができました。その中で特に印象に残った2つの活動を報告します。

○First aid post

ここでは、自転車で公園内を回って人を助け、ケガをしてしまった人の手当てをしています。ひどいケガや病気の時には、救急車を呼ぶそうです。この活動はボランティアで行われています。日本にもこの活動を取り入れて、多くの人を救うべきだと思いました。



←緊急時には、この速く走ることができる自転車を使い、公園内を回る時には、私たちが使うような自転車を使います。



←テントになっていて、一日の終わりには自転車を収納して、全部しめます。



←このかばんは救急箱のようなもので自転車に乗る時に持っていきます。

○血液銀行

血液銀行は献血をするところです。献血をするところを日本では「献血ルーム」と呼んでいますが、シンガポールでは「血液銀行」と呼んでいます。なぜこう呼んでいるかというと、銀行にお金を貯めるのと同じように血液を貯めているからです。下の写真のような「ストレスボール」というものがあり、献血時に手でボールを握り血液の流れを良くするそうです。このボールは医者、ナース、兵士、

先生の4種類あり献血をするともらえることができます。私達は献血をしていませんが記念に先生の顔が書いてあるものをもらいました。1年間で4回献血し、ボールを全種類もらうことを目標としているそうです。



←ストレスボール
医者、ナース、兵士、先生



←献血をしているところ
献血を嫌がる理由として日本と同様に、注射が怖いという理由があるのでシンガポールでは麻酔をしてから献血をします。

○中学校訪問

「Northbrooks 中学校」では、クライミングというスポーツを行いました。普段このクライミングは体育の授業で行われています。上るのがとても大変で、足が疲れました。



↑クライミングの様子

「Compassvale 中学校」では、シンガポールメンバーに搬送の仕方を教えてもらい、一緒に行いました。その後、シンガポールメンバーとたくさんお話をしました



↑搬送法



↑盆踊りをしている様子



↑シンガポールメンバーとお話しているところ

私がこの中学校訪問で一番印象に残ったことは、生徒がとてもやさしかったことです。最初に訪問した中学校「Northbrooks 中学校」では拍手で歓迎をしていただき、クライミングの時につけるヘルメットやベルトのつけ方がわからないときに教えてくれました。「Compassvale 中学校」では、たくさん話しかけてくれて質問をしてくれました。どちらの中学校も英語がわからない私に一生懸命話してくれて嬉しかったです。

・ホームステイ

1日目 ホームステイ先の子のダンス教室を見に行ったり、両親と買い物に行ったり、家で飼っているハムスターと触れあったりといつもの生活にふれることができました。



←手でご飯を食べているところ



2日目 私が、前日に「シンガポール動物園に行きたい」と言うと、家族が連れて行ってくれました。動物園の中はジャングルの、自然に近い環境で動物が暮らしていました。

←シンガポール動物園

ホームステイの家族は、私と本当の家族のように接してくれました。おかげで2日間とても楽しく過ごすことができ、最後はお別れすることが寂しかったです。

ホームステイで学んだことは2つあります。1つ目は日本とは違う文化です。手でご飯を食べていたり、神様をととても大切にしていたりと異文化体験ができました。2つ目は外国人とのコミュニケーションです。私は以前から、コミュニケーションを苦手にしてしまい「英語が話せないから仲良くなれない」と決めつけてしまっていました。しかし、今回のホームステイで考えは大きく変わりました。自分から積極的に話しかけてみる、仲良くなりたいという気持ちをもつ、英語があまり話せなくても自分の行動や気持ち次第で外国人と仲良くなれるということ学びました。

・観光



↑マーライオン



↑夜景

○Garden by the Bay

日本では見られないような珍しい植物が咲いていました。例えば、ドラゴンの形をした木やライチの木でできたライオン、食虫植物が印象に残りました。また、この植物園は 3000 枚のガラスがそれぞれ違う角度ではりつけられています。



↑たくさん貼り付け
られたガラス



↑食虫植物



↑ライチの木でできたライオン

・感想

この派遣で、私は目標を 3 つ立てました。それは「シンガポールの赤十字を学ぶ」「私達との違いを学ぶ」「外国人とコミュニケーションをとる」です。

1 つ目の目標「シンガポールの赤十字を学ぶ」これは赤十字障害者の家や中学校、血液銀行に行きさまざまなことを学びました。その中で私が心に残ったことがあり、それはどちらの赤十字社も人を助けるために頑張っているということです。シンガポールに行き実際に赤十字活動を見て、日本と同様に頑張っているということを知り、世界中に仲間がいることを学びました。

2 つ目の目標「私達との違いを学ぶ」違いというのは、生活や環境、言語の違いのことです。日本はポイ捨てが問題になっていますが、シンガポールの町はゴミがほとんど落ちていませんでした。町がとてもきれいなので、住んでいる人の、きれいな町を保とうという意識が強いのかもしれません。また、違いを感じたのは、外国人が多くいることです。日本は辺りを見わたせば、ほとんど日本人ですが、シンガポールは外国人の方が多数、現地の方が少数です。中国人、マレー人、インド人、現地の人がいきました。そのため、町にはさまざまな言語が溢れていました。言語や生活が違ふと考えが合わず仲良くなれないのではないかと思います。

たが、違いがあるからこそおもしろいことが多く、新しい考えも生まれるため、違いを大切にしたいなと思いました。

3 つ目の目標「外国人とコミュニケーションをとる」私は英語があまり話せず、コミュニケーションをとることが一番困難でした。話す英語を理解してくれないのではないかと不安でしたが、英語を話すと、一生懸命理解しようとしてくれて嬉しかったです。ただ、やはり英語を話せたほうがより楽しく会話できると思うので、大人になるまでに英語力を上げて、ホームステイの家族とすらすら話せるようになりたいです。私は、外国人とのコミュニケーションで学んだことがあります。それは、自分から積極的に話しかけ、仲良くなりたいという気持ちで話すことです。自分の行動や気持ち次第で仲良くなることができるということが分かりました。最初から「話せない」と諦めるのではなく、一生懸命頑張って話してみることも大切だと思います。

また、私には反省すべきことがあります。それは、派遣チームの輪の中に入ろうとしなかったことです。「メンバーは私とテンションが違いすぎるから仲良くなれない」と私自身諦めてしまい、頑張ろうとせず「私は一人でも大丈夫」と思っていました。けれども、最終日の夜のミーティングの時にメンバーや先生が指摘してくれて、自分が「話せない」と壁を作っていたことを知りました。そして、自分とあまり気が合わなくても「話せないから無理だ」と諦めるのではなく、話に耳を傾け、何について話しているのか聞いてみる、少しでもいいからテンションを合わせてみる、など、とりあえず頑張ってみることが大切だということがわかりました。ただ、やはり英語を話せたほうがより楽しく会話ができると思うので、大人になるまでに英語力を上げて、ホームステイの家族とすらすら話せるようになりたいです。

1 週間のシンガポールの生活は、とても楽しく、なかなかできない経験をするのができ、私の宝物になりました。宝物として自分の中に置いておくのではなく、今回学んだことを定例会など赤十字のイベントで発表したり、定例会で国際的なプログラムを考えたり、皆に国際交流について知ってもらえるように頑張ります。

神奈川県立二俣川看護福祉高等学校 高校 2 年 松尾 日菜

私は、シンガポール派遣を通して「シンガポールの福祉事業を学ぶ」ということを目標に活動してきました。その成果を「障害者の家」、「ホームステイ」、「感想」に分けてまとめました。

・障害者の家

私は、シンガポールに行く前にシンガポールの福祉事業について調べました。シンガポールの福祉事業で大きく取り上げられていたのは、障害者の家でした。障害者の家を利用できるのは障害の程度はありますが、知的障害と身体的障害の両方を持っている方です。

障害者の家は、4 階が事務所とデイケアセンターの部屋、5 階が男性の部屋、6 階が女性の部屋、7 階が 15 歳以下の子供の部屋、8 階がホールという作りになっています。障害者の家には 3 つのサービスがあります。

1 つ目は、長期にわたって家として住むことです。長期にわたって住んでいる方は、私たちが訪問した時は 90 名いました。住んでいるところはベッドがたくさん並んでいて、最初は「病院みたいだな」と思いました。また、ひとりひとりの個人スペースはベッド上にしかなく、プライバシーがしっかり守られているのか、疑問に思いました。食事は 5 回あり、鼻のチューブを通してミルクから栄養を摂る人や、お米を食べるなどひとりひとり異なっていて、食事療法を行なうこともあるそうです。

またここには常に医師がいるのではなく、月に 1 回、ボランティアの医師が健康チェックに来るそうです。

2 つ目は、レスパイトケアです。レスパイトケアとは 1 日から 1 ヶ月という一時的に施設を家として利用することです。レスパイトケアを利用している方は、家族の手が必要だが家族が忙しく、一時的に施設に生活の手伝いをしてもらっている方が多いです。長期にわたって住んでいる方と、レスパイトケアを利用している方は、患者様や利用者様ではなく”住人”と呼ばれます。私はこのことを知った時、利用者という立場なのではなく、家に住んでいる一人という意識を持ちリラックスしてもらうための工夫なのかと思いました。

3 つ目は、デイケアセンターです。デイケアセンターとは、9 時から 5 時まで車の送迎を利用して障害者の家にリハビリなどをしに来ていることです。心理療法や作業療法、理学療法など、パズルや塗り絵などを用いてリハビリをし、スピーチセラピーや食事療法など、個人に合ったペースでリハビリを行なっています。

私は障害者の家を訪問して、初めは日本のアパートのようなところにそれぞれの部屋があるのだろうと想像していましたが、実際はベッドが並んだ大部屋だった

り、個人の生活の場はベッド上しかないことを知り、驚きました。また、スタッフの方から、ここにくるボランティアの方の中には、悲しくなったり、同情したりする方がいるという事を教えていただきました。私は、なぜ少しハンデがあるだけで同情をするのか疑問に思いました。シンガポールだけではなく、日本にもこう言った現状はあると思います。実際に見学して日本と同じ問題を抱えているという事を知り、自分の周りから障害への偏見を少しでもなくしていけるような活動をして行きたいと思うきっかけにもなりました。



・ホームステイ

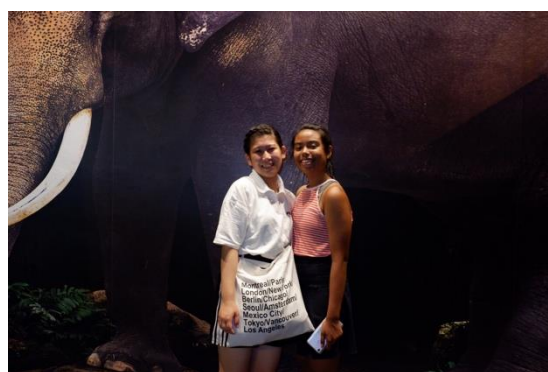
私のホームステイ先は、15歳の女の子がいる5人家族の家でした。ウェルカムパーティーを終え家に帰るとき、私は緊張のあまりなかなか話しかけることができませんでした。赤十字社から家に向かう途中の車で、私がよく聞く韓国のグループの曲が流れていました。私が音楽に乗って体を揺らしていると、「Do you like?」と声をかけてくれ少しだけ音楽の話で盛り上がりました。家は12階建のマンションの4階で、ドアの外には鉄のドアが付いていました。家には15歳の女の子のお母さん、2人の妹、そして家政婦さんが出迎えてくれ、私は全員と握手を交わしました。緊張しながら「Here you are」と日本のお菓子をお土産として渡すと、15歳の女の子と妹たちが飛び跳ねて喜んでくれました。

翌日の朝食は外に食べに行きました。シンガポールでは朝ご飯は外で食べることが多いそうです。日本の屋台のようなところに行き、私はプラタやエビの入ったワンタン、辛い麺など日本にはない食べ物を沢山食べました。日本で当たり前に使っている箸、そしてナイフとフォークという組み合わせはシンガポールでは使わず、一部の民族ではスプーンとフォークで食べるのが主流だそうです。日本語の「いただきます。」を教えてあげ、みんなで「いただきます。」をしました。午後は、15歳の女の子と2人で地下鉄に乗って大きなショッピングモールに出かけました。シンガポールの地下鉄の椅子は日本の大きな体育館にあるようなプラスチックの椅子で、色々な国籍の方が乗っていて、日本との違いに驚きの連続でした。また、前日はなかなか話せず2人で出かける時も緊張していましたが、学校の話や、自分の家族の話、好きな食べ物の話をして単語を繋げながら話をしま

した。ショッピングモールでは、日本に持って帰るお土産を一緒に選び、シンガポールで人気のお菓子や雑貨などを教えてもらい買いました。なかなか私が買いたい物を英語で伝えることができないなかでも、何度も聞き返して、わかりやすい単語で話してくれたのでお互いを思いやって話す時間を楽しく過ごすことができました。

夕方には、1番下の妹と15歳の女の子とスケートをしに出かけました。滑っていると2人が手を繋いできてくれ、3人で手を繋いで滑りました。ショッピングモールでお互いのことを話したことにより、一気に距離が縮まってよかったなと思いました。夕食は、ホストファミリーの友達のホームパーティーに招待してもらいました。初めて会った私にいらっしゃいとハグをしてくれ、小さな子供達も遊ぼうと気軽に話しかけてくれ、「日本語教えて」と話しかけてくれる人が何人もいて、初めて会ったのにこんなにも気軽に話しかけてくれることにとても感動しました。そして、たくさん食べなにご飯を作ってくれるママも我が子のように私に接してくれて、このホストファミリーに迎えてもらってよかったと思いました。そして、単語を繋げながらの片言の英語でも一生懸命に聞き話しかけてくれるシンガポールの方は本当に温かい人たちだと思いました。

夜にはナイトサファリに連れて行ってもらいました。ナイトサファリでは野生の状態の動物を見ることができ、日本は檻の中にいる動物やバスの窓越しから見る人が多いですが、シンガポールは川が流れていて、動物とある程度距離を置いて見ることはできたり、バスには窓もドアもないので、鹿など草食動物がバスの近くを歩いてきたりするということもありました。また、バスから動物の説明が流れている時、日本語訳ができる装置を家族が私に渡してくれて、私の事を考えてくれていることをとても嬉しく思いました。



ホームステイ最後の日は、貧困層のための募金を行うお祭りに行き、ホストファミリーがポップコーンを売っているのを手伝いました。初めてホストファミリーに会った時は、なかなか話せませんでした。3日間ホストファミリーと過ごしてポップコーンを売るときには、知らない人にでも「ポップコーンはどうですか?」と話しかけることができ、自分が大きく成長できたと実感する機会になりました。そして、ポップコーンを売るだけでなくシンガポールのお菓子や食べ物をたくさ

ん食べ、15歳の女の子の友達と仲良くなることもできました。親戚の方は自分の孫のように私の手を握ってくれたり、話しかけてくれたりして自分もたくさん話そうとジェスチャーと単語を繋げた片言の英語で日本のことを一生懸命伝えました。

そして、お別れの時15歳の女の子と次の日本への派遣の時は来る、そして一緒に出かけたい、という話をしました。

3日間という短い期間でこんなにも多くの人と関わり、仲良くなれたのは、自分が話そうと努力したからこそだと思いました。



・感想

今回のシンガポール派遣を通して、言語の大切さを感じる事が沢山ありました。私はあまり英語が得意ではなかったもので、シンガポールに着いた時は笑顔でいることしかできませんでした。言いたいことはあっても、なんと声をかけたらいいのか、なんと言ったら伝わるのかなどを頭で考えているだけで、言葉には出せませんでした。何度かそういったことがあり、あの時聞いておけばよかった、と少し後悔したこともあります。その環境が続きホームステイになりました。ホームステイでは緊張のあまり黙り込んでしまうのではないかと思います。でも、単語を繋げた片言の英語を話しただけでも一生懸命話を聞いてくれ、言葉に詰まった時にはわかりやすい単語に言い換えてくれたりと、私が分かりやすいように話しかけてくれ、私も自然と単語を繋げたり、ジェスチャーを使ったりして、自分の思いを伝えられるようになっていきました。言葉が違っていても、自分の言葉で伝えようとすれば相手も理解をしようとしてくれるということを学ぶことができました。そして、何度も私を支えてくれた派遣団の8人、シンガポールで私たちの生活を助けてくれた赤十字社の方々、ボランティアのみなさんありがとうございました。この9人の派遣団の一員になれて良かったです。



神奈川県立横須賀明光高等学校 高校2年 三嶋 葉月

・事前研修会

事前研修会は、計4回の日程で行いました。献血ルームとライトセンターに行き、日本の赤十字の活動について学習しました。支部では目標を決め、心構えや自分達の役割について話をしました。プレゼンテーションの準備やパフォーマンスの内容など、意見を出し合い作りました。プレゼンテーション準備では、発表内容に困るほど意見が多く出る中、私は食べることが大好きなので日本の食べ物について発表しようと決めたように、「自分なら一番これについて知っている!」というものをそれぞれ選び、プレゼンテーション作成をしていきました。一番大変だった事は、日本語文を英文にすることでした。あまり英語が得意ではないため、学校の英語の先生に相談したり、辞書を使ったりなどをして正確な文章が作れるように努力しました。そのため、シンガポールでプレゼンテーションした際には大きな拍手を貰うことができ、とても嬉しかったです。

・シンガポール赤十字活動

初日は、障害者の家に行きました。日本には無い施設ということもあり、どんな場所なのだろうとワクワクしたことを覚えています。初めに施設の説明を受け、見学をしました。スタッフは全員ボランティアで、100人以上いると聞き、驚きました。皆さんが、自分達の仕事や家庭がある中、休みの日にはここに来ていることにシンガポールの人の優しさや協力しあえる心を感じ、お金をもらえなくても当たり前のように奉仕できる姿は、とても素晴らしいものだと感じました。血液銀行では、献血のしくみやドナーの集め方を教わり、実際に献血をしている様子を見学させていただきました。ここでは驚いたことが多くありました。ドナーを集めるためにCMで実際にドナーの方自身が呼びかけをしていたり、日本では採血には40分かかるところシンガポールでは5分で終わってしまう速さに日本との違いを感じました。



・中学校

Northbooks 中学校に訪問した際には、ボルダリング体験やシンガポールの民族衣装と民族舞踊を見させていただきました。ボルダリングでは、高さが三種類あり私は一番低い壁に挑戦しました。一回目は一番上まで行くことができませんでしたが、二回目では上まで行くことが出来ました。降りた時には Red cross のメンバー全員から、Red cross 流の応援をしてもらい、とてもうれしかったです。民族舞踊では中国、インド、マレーシアの踊りを披露してくれました。同じアジアの国なので、曲調が似ているのかなと思いましたが、リズムやテンポなど全く違い、動き方や動かす体の部位まで違うことに多民族国家ならではのなと思いました。

Campassvale 中学校では、3 人で行う搬送の仕方や Red cross メンバーとの交流を主にしました。人が倒れた時を想定して、一番安全、安楽に搬送できるやり方を教えてもらいました。声かけとタイミングを合わせることで、ただ持ち上げるのとは違い、とても楽に運べるのだと実感しました。Red cross メンバーとの交流では、好きなアイドルやアニメの話で盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。



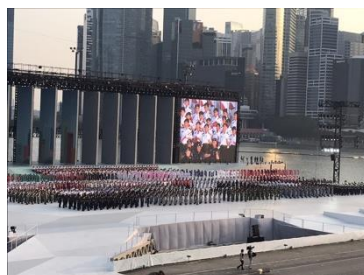
・ホームステイ

人生で二回目のホームステイでしたが、文化や言葉が全く違うのでとても緊張しました。私とバディは Welcome パーティーの時から話をしていたのでバディ決めの際に、お互いホッとしたのを覚えています。バディの家に到着すると、家族全員で迎え入れてくれました。私のことをお客さんとしてではなく、家族の一員として扱ってくれてとても嬉しかったです。次の日は、シンガポールの一大イベントである We are Singapore に連れていってくれました。観客席に座ってる人全員が赤か白の服を身にまとっている姿に驚きつつ、偶然赤と白の服を着ていたことに安心しました。イベントが始まると、軍のヘリがたくさん飛んできたり、ダンスや歌、クイズが始まりシンガポールの文化を知る良い機会になりました。国歌を歌う時には、歌詞を知らない私のためにホストマザーがワンテンポ早く教えてくれたことや、とても暑い日だったので水分をしっかりと取れているか気にかけてくれるなどホストファミリーの優しさに、心があたたかくなりました。

ホームステイ最終日では、朝ごはんを食べに出かけましたが、テーブルに料理がのりきらないほど、たくさんの料理を頼んでくれました。ご飯をたくさん食べる姿を見て気持ちいいと言ってくれ、たくさん食べさせてくれました。朝食の後には、シンガポール唯一の山に登り絶景を眺めにいきました。カメラ好きのホストファザーがホームステイの間、沢山写真を撮ってくれ、思い出が増えました。

バディが通う中学校にも行き、シンガポールの流行りの歌やダンスなど教えてくれたり、ショッピングモールに行き飲み物を飲んだりなど、学生の日常も体験できました。

ホームステイが終わり家を出る時には、おばあちゃんが泣きながら抱きしめてくれ、「いつでも来ていいからね」と言ってくれとても感動しました。シャイだった妹さんも最後には私にべったりくっつきホストマザーを困らせていました。バディとは SNS を通じて今も交流し、来年日本に来た時には「会いに行くね」と言ってくれました。本当にとても温かく優しいホストファミリーと出会えて良かったです。



・感想

これからの私の活動は、この国際交流事業を皆で広めていくことなので、支部での定例会や私が活動している横須賀地区の定例会でも報告していきたいです。一回報告して終わりではなく来年、再来年と続けていかれるようにしたいです。

最初は、知り合いが誰もいない状況でとても不安でしたが、事前研修会を重ねていくうちに、共通の話題で会話が増え、事後研修会が終わった今でも遊びに行き、来年のシンガポールメンバーが来た時のホームステイ受入についてやボランティアをやりたいなど研修会以外の時間でも話せることに、私はこのメンバーとの時間を最高に楽しめたのだなと嬉しく思いました。今回普段の学校生活では知れることが出来なかった事や、成長出来なかった部分も吸収して成長することが出来ました。異文化の環境に適応する力や、話すことだけが会話ではないこと。自分が今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないこと。シンガポールの習慣や文化など様々なものを自分の目で見て、触れ、体験することが出来ました。私の将来の夢はまだ決まっていませんが、この派遣で多くの人と交流して学びが深まったことにより、国際的な仕事に就きたいと思いました。英語は得意ではありませんが、この気持ちを糧にしてみっと多くの言語の勉強もしていきたいです。来年シンガポールのメンバーが来た時にはボランティアとして参加できたらいいなと思います。このメンバーで行くことができ、多くの人と交流でき楽しい時間を過ごすことができ、本当に良かったです。これで終わりではないので、自分で出来ることを探し広めて多くの人と交流し続けていきたいです。



洗足学園高等学校 高校2年 吉村 茉莉花

私はこの派遣に参加し、次の三つの点において自分に変化を感じました。

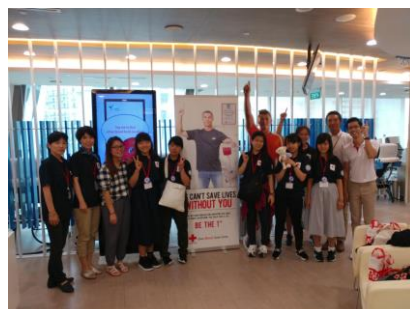
一点目は、英語を好きになったことです。小学生のころにアメリカに住んでいたことから、日本語と同じくらい英語を話すことができましたが、それを特別にすごいと思ったり、英語が好きということはありませんでした。しかし、シンガポールで施設を訪問した際に、同時通訳をしたり、現地の方と話したりする中で、英語を話せることは大切な能力だということに気がつきました。そして、一緒に行ったメンバーと現地の人との言葉の架け橋になり、二つの言語を一度に使うことが楽しくなり、今までむしろ嫌いだった英語を好きになりました。

二点目は、どんな食べ物に対しても恐怖心がなくなったことです。シンガポールで食べたものの中でも一番印象的だったのはドリアンです。シンガポールでも好き嫌いが激しく別れるらしく、噂通り臭いは強烈でした。しかし、その香りを臭いではなく特別と捉えることができたなら、濃厚な味がクセになります。日本ではドリアンを見かける機会は少ないですが、また機会があれば食べたいと思います。私は小さいころから食わず嫌いが多く、新しい食べ物には挑戦して来ませんでした。しかし、とりあえず食べてみると、意外と美味しかったり、今まで食べたことがある何かに似ているものもありました。何事にも偏見を持たずに挑戦してみると、思いもしない発見や成長ができることに気がつきました。

三点目は、赤十字のもつ「人と繋がる力」です。2017年度の国際交流で日本に来たシンガポールの職員の方や先生にシンガポールで再会することができました。また、一緒に行った日本のメンバーの中には、この派遣に参加していなければ、関わらないであろう人もいましたが、帰国後も定期的に会うほどの素敵な仲間に出会うことができました。

・血液銀行

今回の派遣で一番楽しみにしていたことは、血液銀行への訪問でした。今年の文化祭のテーマを献血にし、そのために血液センターに見学に行ったり、事前研修で献血ルームでお話を伺ったりしていたので、献血への関心が高く、海外の血液事業についても興味がありました。少子高齢化によって必要な輸血用血液が増加している一方で、若年層の献血者数が減少しているという、日本と同じ問題を抱えていることがわかりました。異なる点としては、採血は一律 450ml ということ、赤十字社は献血を普及することを担い、技術的なことは政府の保健科学庁が担っているということがありました。シンガポール赤十字社は献血について学校で話をするところがあるので、日本でも保健や社会の授業で少子高齢化について高校で触れる時に、献血のことを扱えば、高校生のうちから献血をする人が増えると考えました。私は多くの友達を誘って献血に行き、献血を広めようと思います。



• Northbrook Secondary School

この学校では文化交流と学校見学をしました。日本のメンバーで「東京盆踊り2020」を浴衣で踊り、日本と日本赤十字社のことについて発表しました。学校見学の際に、学校自慢のロッククライミングを体験しました。以前からロッククライミングに興味がありましたが、まさかシンガポールでそれが叶うとは思いませんでした。一番最初に挑戦をし、簡単な壁の頂上まで到達することができました。二回目の挑戦では一番難しい壁に挑戦し、途中で手の力が抜けながらも、なんとか登り切ることができました。校内には日本では珍しい、トレーニングルームやゲームルームがあり、驚きました。また、レッドクロスユースのメンバーが起立、着席の際にかける「One, two, Red Cross」という掛け声も印象的でした。



・ホームステイ

私のホームステイ先の Amelia という子はとてもシャイでした。シンガポール赤十字社の本社から家までのタクシーの中では携帯に集中していて、会話ができませんでした。質問をしても yes か no だけの返事の時もあり、心が折れそうになりました。しかし、家に着くとお母さんが温かく迎え入れてくださり、たくさん話ことができました。私が日本のことを教えたり、シンガポールについて教えてもらったりしました。

二日目は、お母さんが日中は仕事のため、Amelia と一緒にショッピングモールに行きました。日本のショッピングモールと似ていました。日本のお店もありました。シンガポールではあまり自炊することがないため、夕食は屋台で買ったものを食べました。シンガポールはマレーシア、中国、イギリスなど様々な国の文化が混じり合っているので、食べ物の名前を聞いても、アジアから来たものだと、英語ではないので、名前だけでは何からできた、どんなものなのか、全くわかりませんでした。Otahe、Chilli stingray、Carrot cake、Pineapple rice、Satay というような日本では聞いたこともないご飯や、Jackfruit、Longan、Durian などのフルーツを食べました。通常の旅行では食べない物ばかりで、ホームステイならではの貴重な体験ができました。

最終日は家の近くを散歩してみました。高齢者向けの負荷の低い運動器具が公営住宅の隅々にあり、いくつか挑戦してみました。sky walk という器具は、降りた後も、フワフワした感覚が残り面白かったです。Amelia に教えてもらったことで、とても印象的だったことは、シンガポールの学校は 7:30~1:30 ということです。学校が早く終わる一方で、朝早く起きなければならないので、私には厳しいなと思いました。



シンガポールに行き、自分の想像以上に、たくさんの素晴らしい経験ができました。この派遣に参加しただけでなく、定例会や学校で発表することで、私が感じた赤十字の可能性を広めたいと思いました。さらに、この派遣のことを友達に話すときに、JRC や赤十字のことを伝え、献血などの赤十字の活動に参加してもらいたいと思いました。

神奈川県国際赤十字奉仕団 須賀 春菜

今回の青少年赤十字国際交流事業では、通訳として参加させていただき、大変貴重な経験をしました。今回のプログラムを通して、特に私が得た気づきをここに報告いたします。

・シンガポールと日本の違い

今回私は、通訳ボランティアとして、シンガポール赤十字社の職員やボランティアの方々、訪問先の学校の先生方、各施設の職員の方々と沢山お話をする機会をいただきました。シングリッシュと呼ばれるシンガポール独特の英語訛りもあり、聴き取りに苦労した場面もありましたが、各所訪問においては大変貴重な体験ができました。日本との違いを実感した場面も多々あり、ここに紹介いたします。例えば赤十字障害者の家でのこと。こちらは、重度の知的、身体障害のある方々の生活施設ですが、初めての訪問にもかかわらず、ベッドに寝ている利用者さんの食事介助をやってみないか、とその場で提案されました。日本ではまず、介助中に何かあった時は誰がどのように責任をとるのか、ということになるのでそのフランクさに驚きました。献血センターではシンガポールの血液事業についてお話を伺い、ホームページや **Facebook** を通じて日々の不足血液の情報が逐一得られるようになっていたことを知りました。また、訪問先の学校ではボルダリング用の壁があり、ボルダリング体験ができました。行う際は生徒二人が下でハーネスをつけてロープで支えることになりませんが、高さもあるので危険も伴います。しかし、スポーツの授業の一環で行われていました。こちらの学校では校内に生徒のアート作品を展示販売するギャラリーショップがあり、売上は貧困家庭の教育に必要な文房具等を購入するための資金に充てられる仕組みができていました。また、別の学校では、課外授業で赤十字の大学生ボランティアが見守る中、生徒たちが救急法の講習会を行っていてそちらに参加しました。これらの学校訪問では生徒主体の柔軟な学校教育の発想、取り組みに触れることができました。特に学校内に生徒の作品のお店がある、という話は日本で聞いたことがなかったので非常に興味深かったです。

・通訳として

私にとっては誰もが初めまして、の状態から始まった 1 回目の事前研修。通訳要員ではあるものの、皆をシンガポールに連れて行く大人の一人としてどのような立ち位置でこのプログラムに参加していけばいいのか、最初は若干戸惑いました。ですが、邊見先生と内田さんのお話をお聞きしながら、やりとりをする中で私は二人のサポートに徹していこうと決め、参加しました。今プログラムへの目的、目標も伺いつつ、時には自分の考えもお伝えしながら、チームの一員として共有、協力しながら全行程を終えることができたと思っています。そして、今回

参加の高校生たちとの出会い。事前研修から何度も話し合い、プレゼンやパフォーマンスの準備を重ねてきました。彼女たちのエネルギーとパワーには圧倒されっぱなしでした。現地では慣れない英語での会話に最初はかなり戸惑っていた子たちも多かったようですが、ホームステイを終えて戻ってきた彼女たちは一皮むけた様子で、そこからより積極的にコミュニケーションをとろう、なんでも吸収、経験しようとする姿が見られ、異文化での生活は人を成長させるのだと改めて感じました。

・シンガポールの多文化共生教育

シンガポールの国民への愛国教育の徹底ぶりには度肝を抜かれました。今回は貴重な機会を得て、8/9の建国記念日に向けたナショナルデーパレードのリハーサルイベントに参加しました。リハーサルとはいえ、本番までに8回、一回およそ3時間をかけて行われるそうで、そこに集まる人々のパワー、エネルギーはすさまじいものがありました。ステージ終了後、あまりの感動と興奮に私は言葉を失い、しばし茫然としました。この感動を現地ガイドの方にお伝えすると、「シンガポールは人口が少なく、多民族だから、そうしないと国がまとまらない。」とのお話でした。

シンガポールの人口は2017年の時点で約560万人、そのうち約400万人がシンガポール人および永住者、残り約160万人が外国籍の人です。つまり、国民の7人に2人は外国人です。また、多様な民族から成り、国民の74%が中華系、13%がマレー系、9%がインド系です。宗教は仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教、と多岐に渡ります。このように多種多様な背景を持つ国民から構成されているので、その全価値観を包括して国をまとめるのは並大抵のことではなく、そのためにも、毎年あれだけ盛大にナショナルデーパレードを行っているのだということを今回初めて知りました。どんな事情にせよ、多種多様な価値観を認め、ともに歩もうとするこの国の姿勢には学ぶべきことが多いと感じました。

最後に、シンガポール赤十字社の職員の皆様を始めとして、特に現地のボランティアの方たちには本当にお世話になりました。日本での活動同様、シンガポールでも赤十字活動にとってボランティアの存在は大変大きく、その一人一人の熱意と自発的な行動により活動が成り立っていることに改めて気づかされました。また、参加した高校生たちが意識を高く持ち、このプログラムの成功に向けて皆で悩みながら話し合いを重ね、時にはぶつかる場面もありながら、それでもチームとしてこの経験を価値あるものにしていこうとする姿には心打たれました。すぐに結果の見えるものではないですが、大人になったときにこうして異文化の中で一つの目的に向かい仲間と切磋琢磨した経験はきっと彼女たちの生きる糧になると確信します。私も、この貴重な体験を多くの方に伝え、今後の活動に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

日本赤十字社神奈川県支部では、青少年赤十字の活動の一つである「国際理解・親善」の具体的な取り組みとして、シンガポール赤十字社と国際交流事業を平成24年度より実施。隔年で派遣・受け入れを行っている。今回4回目の派遣団として、青少年赤十字メンバーの中高校生6名、通訳ボランティア1名、支部職員1名と共に指導者として派遣された。

事前研修4回の後、7日間の渡航と事後研修1回の瞬く間の出来事であったが、生徒と共に多くのことを学ぶことができた。生徒の引率者として、赤十字の一員として、教員として、それぞれの立場から今回の活動を報告したいと思う。

・生徒の引率者として

4月下旬、派遣生徒の選考会当日同席することができた。生徒たちの前向きな姿勢に代表としての責任を噛みしめた。渡航前にメンバー変更等があり、最終的には中学生1名・高校生5名の合計6名が代表として決定した。派遣団スタッフは通訳ボランティアの須賀春菜さん、支部青少年係長の内田直人さん、私の合計3名。日程の都合上、今回は支部職員が1名減。引率教員としてだけでなく、赤十字の一員として内田さんのサポートもできればと気を引き締めた。須賀さんと内田さんは、シンガポール赤十字社スタッフとのやり取りの中で、とても苦労されていた。お国柄なのか大変ゆったりとした対応に準備が進まない様子だった。旅行会社とのやり取りも同様のようだったが、安心してお任せすることができ、とても感謝している。お二人に支えられながら、5月、事前研修がスタート。それは、生徒がそれぞれ様々な不安を抱えてのスタートだった。初対面の不安、渡航経験のない不安など少し緊張するメンバーもいる中、先ずはこの交流の目的を決め、日本と神奈川県の赤十字活動の紹介プレゼンテーションづくり、ダンスパフォーマンスの練習を行った。ほとんどのメンバーが、日頃からJRC (Junior Red Cross)部員として青少年赤十字活動を実践していたが、その活動は様々。そのため、目的決定には時間をかけ、お互いの意見を出し合った。共通していたことは、日本のこと、神奈川県の赤十字活動のことを伝えたい。シンガポール赤十字との違いを知りたい、学びたい。派遣後に、得たものを活かしたい。ということであった。ひとつひとつ真摯に確認し合うメンバーたちに頼もしさを感じた場面だ。この支部での作業の合間に、須賀さん内田さんも同席してくださり、派遣生徒の個別面談を行った。チームとしてひとつになること、全員無事に帰国することを念頭に置いていた私は、彼女たちを知りたかった。タイトなスケジュールの中の僅かな時間であったが、エントリーシートからは見えない部分を知ることができた。

事前研修の一環として、横浜のLeaf 献血ルームと二俣川のライトセンターを訪問した際には、集団行動の練習にもなり、移動の際の課題も見え、生徒の行動を知るととても良い機会となった。これらをふまえ、派遣当日支部に集合し出発式を

終え、羽田空港へと移動した。ここでは時間に余裕がありゆったりと過ごしたが、より良い過ごし方があったのではないかと考える。

現地に到着後は、往路機内で体調変化のあった生徒が少し動揺していたが、自己解決しようと努力していることに、まともや頼もしさを感じた。機内泊により、ほとんど睡眠がとれず、キャンプサイトでも安眠できず、メンバーの健康状態がとてつかりであった。

赤十字障がい者の家では、想像以上に厳しい環境であったことに衝撃を受けた。スタッフから食事の介助を勧められ、体験してみたいというメンバーもいたが、看護師志望の生徒たちが“日常の利用者を知らずに体験することは、誤嚥等の危険もあり責任を持てない”という理由ではっきりとお断りした。ほんの一瞬の決断であったが、しっかり考えていると感じた。

ホームステイの日を除き毎日、全員で 22 時頃にロビーのソファに集合し一日の振り返りを行った。これは、とても貴重な時間であった。特に最終日は印象に残る。引率者としては、出発日の羽田空港の待ち時間を含め、このミーティングの時間をより有効的に使うことができたのではないかと考えた。JRC の態度目標「気づき・考え・実行する」を実践すべく、メンバー自身が気づき・考え・行動してくれることを待つ姿勢を取り、常にメンバーを信じて待ち続けたが、「チームとして」という大前提の部分の考えると、早い段階での投げかけや、個々への対応が必要だったのではないかと。様々な想いが蘇る。

・赤十字の一員として

事前研修で訪問した、横浜 Leaf 献血ルームとライトセンター。メンバーだけでなく、私にとっても大変良い経験になった。体質の関係で献血ができない私には、献血ルームは初めて。献血手帳を何冊も持つ母から、幼少期に聞いていた話とは違い、その心地よい空間に衝撃を受けた。ライトセンターには何度も訪問・見学をしており、視覚障がい者の方からのお話も幾度となく伺っていたが、今回初めて耳にすることもあり、とても勉強になった。

現地では、まずキャンプサイト。私たち派遣団の対応を一人のボランティアに全て任されていることが印象的であった。日本では近年災害が多発していることから、不便な環境を敢えて経験することも、赤十字の一員として必要なのだと感じたが、初日は涼しい場所でゆっくり休み、後の行程に備えることが健康管理上良いと感じた。渡航前の日本の記録的な猛暑により暑さに慣れていたためか、幸い体調不良者が出なかった。また、赤十字障がい者の家は、物理的な環境も人的環境もとても厳しいと感じたが、ボランティアが支えていることを痛感した。First Aider On Wheel (First Aid Spot 救護所) はボランティアの方々が積極的に関わり運営していた。神奈川県にはないそれぞれの施設・運営に、メンバー全員が違いを感じていた。学校の中の JRC の位置付けも、シンガポールでは組織的にしっかりとしており、日本との大きな違いを感じた。その中で、学生・社会人のボランティアの方々、通訳ボランティア・コーディネーターの優しさ溢れる“おもてなし”にとてつ驚かされた。特に、生徒たちのホームステイ期間中に私たち大人

スタッフを案内する際には、日本人以上のおもてなし力を受け脱帽。まるで SP (Security Police) が要人を警護するような場面もあり、東京オリンピックも間近に控え、考えさせられた。

・教員として

二つの学校を訪問した。North brooks secondary school では、先生と生徒の意思疎通ができており、ほぼアイコンタクトでの指示。見ていて爽快であった。クライミングが授業に組み込まれているということだが、日本の学校現場では、予算・安全の両面から到底無理なことだと感じた。実際に体験することになり、メンバーの挑戦する姿はとても眩しく、達成後の彼女たちの清々しい笑顔は、とても嬉しく感じた。不測の事態に備え私は体験しなかったが、挑戦してみたかった。校内施設・設備の充実には、圧巻の部分が数多く見られた。生徒の作品を展示・販売していたり、食堂には多国籍の屋台が軒を連ねる形になっていたり、感心させられる部分もあった。

Compassvale secondary school では、救急法の搬送実技の練習をしているところで、コンクリートの床にかなり大雑把な搬送。見ていてハラハラドキドキ正直、運ばれたくないなと思った。交流の時間の生徒たちの親しさにはとても驚いた。とにかく距離が近い。こちらのメンバー 1 人に対して何人もが取り囲み、次から次へと質問が飛んできていた。みんな圧倒されながらも必死に応え、笑顔で交流していた。英会話が苦手など感じる余裕もないくらいに。

ウェルカムパーティーでは、シンガポール赤十字社の事業紹介プレゼンテーションがあり違いを学び、その後、練習をしてきたプレゼンテーションとパフォーマンスの東京盆踊りを披露した。この後、それぞれのホームステイ先に出発する生徒たちを見送った。この時、急遽シンガポール赤十字スタッフと先生方に話をし、対応していただく出来事もあり、引率者として・教員としての責任を確認した場面でもあった。生徒がホームステイ先で有意義に活動するためには、とても大切なことであった。

ホームステイでは、それぞれが様々な体験をしており、ホストファミリー格差も強く感じた。ここでも課題のひとつを確認した。メンバーそれぞれの、充実した表情と努力し成長した姿は、とても生き生きとしていて嬉しかった。国際交流事業の意義を強く感じた。

ホストファミリーと建国記念日 (8 月 9 日) のリハーサル (7 月の毎週末) に参加したメンバーがいたが、私たちも赤十字スタッフとともに参加していた。その盛り上がりは、とても言葉では表現できない。衝撃的な規模の大きさと国民 (様々な人種・民族・宗教・思想) のすべてがひとつになる NDP (National Day Parade) のショー。かつてないほどの感動と衝撃だった。一度体験すると "言葉を失ってしまう" ということ、多民族国家がなぜ平和であるのかということが理解できるのではないかと思う。

私たちスタッフはタイミングよく、大統領官邸の公開日にも重なり見学することができた。NDP 同様、戦略的な取り組みに衝撃を受けた。大自然の中、家族でゆ

ったり一日を過ごすことができる。様々な人種・民族・宗教のテントがあり、それぞれの体験から、親子で楽しむこともでき、遊びながら学ぶこともでき、自然に幼少期からの愛国教育がなされている。見事であった。これからの日本には、とても大切であり学ぶべき点であると感じた。

事後指導・事後研修では、LTCや定例会の発表を含め、今後の赤十字活動に活かしていくための報告書作成や、今後の派遣へ向けての問題点・課題についてのまとめを進めた。立場上、生活指導の面では、終始厳しいことも伝えていた。それは、神奈川県日本の代表として派遣されること、教育活動の一環であることをメンバーに自覚させるためであったが、伝わり切らない部分もあったようだ。この短期間のメンバーの成長には目を見張るものがあるが、5年後、10年後、大人になり、気づき・考え・実行し、さらに成長することができると確信する。

今回、とても大切な出会いと貴重な体験をすることができた。それは、須賀さんと内田さんの存在が大きい。須賀さんには、数十年前に一度きりの渡航経験の私を、通訳としてだけでなくあらゆる面で支えていただき、メンバーにとっても良き相談相手、安らぎの場所になってくださった。内田さんには、男性1人の中で、陰にも日向にも時には盾になり、私の派遣に対する思い、メンバーに対する想いを聴き、支えていただいた。お二人に心から感謝申し上げる。

このような素晴らしい体験をする機会を与えていただいた、日本赤十字社神奈川県支部には心より感謝し、また、神奈川県教育委員会高校教育課の越藤邦夫氏、本校の市川誠人校長には、公務出張扱いという制度を整えていただき、神奈川県青少年赤十字指導者協議会を代表し心より感謝申し上げたい。

この貴重な経験を、今後の赤十字活動・教育活動に活かしていきたいと思う。



日赤神奈川県支部 事業部 青少年・ボランティア課

青少年係長 内田 直人

平成 24 年度から始まったシンガポール赤十字社（以下、シ赤）との青少年赤十字国際交流事業は今回で 6 年目を迎え、日本からの派遣も 4 回目となりました。これまでの派遣事業の手順や展開を参考にすると共に、派遣団員のそれぞれの特徴や資質などを考慮し、教育的効果が得られるように進めました。

4 月の派遣団員選考会により青少年赤十字（以下、JRC）メンバーを決定しました。選考会の選考委員は県青少年赤十字指導者協議会会長である県立横須賀明光高等学校の吉岡 清隆校長と大竹事業部長に担っていただき、青少年赤十字指導者として派遣メンバーである邊見 亮子先生にも立ち会っていただきました。

5 月から派遣までの期間で事前研修会を 4 回行い、派遣団や派遣団員としての目標設定、プレゼンテーション（主な内容としては、赤十字や青少年赤十字について、日本文化の紹介、各学校の青少年赤十字活動など）やパフォーマンスの準備を行いました。また、横浜 Leaf 献血ルームや県ライトセンターに施設訪問し、事前学習も行いました。

JRC メンバーのうち半数は海外への渡航経験が無かったため、海外での過ごし方や注意点についても保護者説明会や事前研修にて繰り返し指導しました。また、派遣期間中も安全に進むように JRC メンバーの様子を注意して見るようにしました。現地シンガポールでは、それぞれがこれまで学んできた日本赤十字社や青少年赤十字の活動、文化や生活など多くの違いを感じ、考えや意識の成長があった 6 日間でした。

・派遣団員の構成

今回の派遣団員（JRC メンバー）は 3 月に県内青少年赤十字登録校中学校・高等学校長あてに募集の通知をし、応募のあった 15 名（全員女子）を対象に選考会を実施しました。応募申込の際に課題作文「この交流を通じて何を学び、今後の青少年赤十字活動にどのように活かしたいか」を提出してもらい、課題作文・推薦書・グループディスカッション・面接の総合評価で選考し、JRC メンバーを 7 名決定しました。

青少年赤十字指導者は、神奈川県青少年赤十字指導者協議会会長から推薦をされた神奈川県立藤沢総合高等学校の実習助手 邊見 亮子先生に依頼し、通訳ボランティアは、神奈川県赤十字国際奉仕団から推薦された須賀 春菜さんに依頼しました。支部職員の私を含め 3 名がスタッフとして派遣されました。その後、JRC メンバー1 名の派遣辞退が生じ、選考会にて選出されなかったメンバーの中から 1 名繰り上げで選出しました。さらに、7 月に入ってから、JRC メンバー所属の学校長から派遣辞退の申し出があり、最終的に JRC メンバーの派遣は 6 名となりました。

今回の派遣では支部職員を除き、JRC メンバー、青少年赤十字指導者、奉仕団員は全員女性でした（前回も JRC メンバーは全員女性）。次回以降については、男子生徒を含んだ派遣団編成にできるよう、より広く募集をかけるように進めたいと思いました（公募前から JRC 登録校男性メンバーにエントリーの声をかけるなど）。また、今回中学 3 年生を 1 名 JRC メンバーに加えて派遣することができ、世代の幅のある派遣団編成となりました。

今後の国際理解・親善等青少年赤十字の普及を考えると中学生の良きモデルとなったと考えます。

・青少年赤十字指導者及び赤十字国際奉仕団員の参加

これまでの派遣団と同様、県内の青少年赤十字指導者の中で積極的に協力いただいている指導者（今回、邊見先生）にお声掛けし、派遣団長として携わっていただいた。今回特に神奈川県教育委員会高校教育課及び神奈川県立藤沢総合高等学校の市川校長先生のお力をいただき、邊見先生の派遣を公務出張扱いとしていただきました。

邊見先生は、JRC メンバーに対して、事前の発表資料やプレゼンテーション、パフォーマンスのアドバイスから、派遣時の行動・言動、事後の発表原稿・感想文・報告書の添削まで、親身になって指導してくださいました。

前回（平成 28 年度）と同様、通訳として赤十字国際奉仕団員の須賀さんを派遣団に加えしました。国際奉仕団員の派遣については必要不可欠な存在であると考えます。シンガポールで行なうプレゼンテーションの発表資料（英語）をそれぞれの JRC メンバーに作成してもらい、最終的に英語の文法や表現方法等についてアドバイスをさせていただきました。極力 JRC メンバーの能力を活かそうとする姿勢で上手く距離感を保っていただきました。また、私自身もシ赤との連絡調整や協議の場において手助けをしていただきました。なお、事前研修から事後研修まで基本見守る姿勢で不足している部分を補う形でかかわっていただき、JRC メンバーが能動的に動けるように適宜支えになっていただきました。

今回は邊見先生を含めて大人 3 人態勢だったので、安全管理についても担っていただき、大変助けていただきました。

JRC メンバーに奉仕団活動の一つとして、ボランティア活動の様子を見せる上でも、次回以降の派遣においても、通訳を担える奉仕団員（主に国際奉仕団や青年奉仕団など）の派遣が望ましいと思いました。

・派遣団員の資質

前述したように学校長の推薦を受けての選考であるため、派遣団員は神奈川県青少年赤十字メンバーの代表として参加しており、資質や目的意識が備わっていたと思います。また、青少年赤十字の登録校として活動している JRC メンバーや神奈川県高等学校青少年赤十字連絡協議会の役員経験者、高等学校 LTC 修了者が多かったことが資質や目的意識が備わっていた要因として考えられます。

今回の国際交流事業を通じて体験したことを今後の活動に繋げてもらうため、

個々の青少年メンバーに対して、今回の経験を他の JRC メンバーや学校、地域等に生かして行けるよう、引き続きサポートして行きたいと思います。

英語（語学）については、海外に住んでいた JRC メンバーが 1 人いたため、国際奉仕団の須賀さんと共に、海外メンバーとのコミュニケーションを図るきっかけ作りをしてもらいました。それにより JRC メンバーの緊張感も徐々に薄れ、自主的に声かけをしている様子も見られました。事前に英語の勉強はしてきたものの、思うようにコミュニケーションが図れず、躊躇している姿もあり「もっと勉強してくればよかった」、「帰ったら、英語の勉強をしよう」、「英語の勉強会を定期的にやろう」など、今後に繋がるような意欲も見られました。この経験を原動力に継続して語学の習得をしてもらいたい。

・事前研修会について

前述したように、今回の JRC メンバーは、JRC 部として学校で活動していたり、高等学校 LTC 修了者や神奈川県高等学校青少年赤十字連絡協議会役員経験者が多く占めていましたが、シンガポール派遣に伴う教育効果を高めることと、国際交流の経験をその後に生かしてもらうために、3 回の事前研修のほか県血液センター（横浜 Leaf 献血ルーム）と県ライトセンターの施設見学を実施しました。また、3 回の事前研修ではシンガポールで披露するプレゼンテーション（日本文化の紹介、JRC 活動紹介など）及びパフォーマンスの作成に時間を使いまいした。さらに派遣団として目的やねらいの意識統一を図りつつ、チームビルディングを大事にしました。さらに今回、個別ミーティングを適時実施するなどし、JRC メンバーの声や想いをしっかりと聞く機会を作るようにしました。

・事後研修会について

事後研修会は 9 月 2 日（日）に実施しました。派遣後 1 ヶ月ほど経っていたこともあり、落ち着いた様子の中、一人ひとり意見を出し合い「国際交流の振り返りと今後 JRC メンバーとして何ができるか、どの様に生していくか」を考えました。具体的に JRC メンバーとして「JRC 活動の中で献血について広めて行きたい」、「将来看護師になりたいので、海外の障害者施設を見ることができて勉強になった」、「今回の経験を学校や地域の人に伝えたい」など様々な感想を聞くことができました。

今回も前回同様に午後から半日の予定で実施しましたが、午前から 1 日かけて実施すると、今後どの様に生かして行くかなど、より効果が得られる研修になると感じました。

・プログラムについて

国際交流のプログラムについては、旅行会社（近畿日本ツーリスト）を通じて、シ赤の担当者と調整の上、これまでの国際交流のプログラムを踏まえて作成した。学校訪問、赤十字施設訪問、文化施設の見学など「国際交流・学び・観光」のバランスの良い行程となっており、安全に実施することができました。

食事については、シンガポールの特徴である多文化の要素が味わえるメニューになっていました。また、異国の地での生活、高温多湿の環境のため、派遣団員の体調や安全管理を考えて進めましたが、前回同様に支部職員がもう一人同行できると心強かったと思いました。

これまでの国際交流の反省を生かし、各日余裕のあるプログラムにしましたが、夜のミーティングを含めると、結果として22時過ぎになってしまった日もあり、次回以降はより余裕のあるプログラム作りをしたいと思います。

ホームステイは、日程の2日目のウェルカムパーティーの後から4日目の昼までの2泊3日実施しました。JRCメンバーそれぞれわくわく、ドキドキの中、ホームステイ先に向かっていきました。4日目戻ってきた時のJRCメンバーの表情は一変していました。ホームステイ先のメンバーとの別れを惜みながら、個々がホームステイ先でコミュニケーションを取って来た様子が伺えました。その後の移動中も個々のホースステイ報告を自主的に実施しており充実していた様子が伝わってきました。今回も前回同様に2泊のホームステイの計画を立て実施しました。今回もJRCメンバーが充実している様子を見られたので、次回以降も2泊の実施計画が望ましいと考えます。

赤十字施設訪問では、重度障害者施設「障害者の家」や「血液銀行（献血ルーム）」の施設見学をしました。各施設の職員さんや入居者・ドナーさんに、日本赤十字社とシンガポール赤十字社との違いなど、直接質問をし、積極的に赤十字運動や事業への理解を図っていました。

今後JRCメンバーとしてできることを模索している姿もありました。

学校訪問については、2つの学校を訪問しました。学校ではロッククライミングをしたり、シンガポールのメンバーと共に救急法の搬送について学んだり、各所で生徒同士交流を図りつつ学ぶ姿がありました。また、事前研修から準備をしたプレゼンテーション、パフォーマンスも披露しました。

ホームステイの7/27.28以外は、毎晩派遣団全員でミーティングを実施しました。その日の学びを振り返ると共に反省や課題について、一人ひとり意見を確認し合う時間を作りました。日によっては団結力を欠くような意見も出ましたが、互いにそれぞれの意見を尊重し、次の日には反省や課題を解決するように進めていました。

今後のプログラムについては、現在のプログラムも悪くはないが、何か事前にテーマを決め生徒同士で交流が図れるプログラム作りが必要に思えました。次回の実施時は赤十字施設訪問や学校訪問を1箇所減らしてでも、じっくりディスカッションやグループワークなど生徒同士向き合えるプログラムを入れて行きたいと思いました（派遣受入時も同様の問題を抱えています）。

・国際交流の相手国としてのシンガポール

シンガポールは多文化共生・平和共存という国民性もあり、他者理解に優れており、派遣団員に対して、とても親切丁寧に接していただきました。その姿勢には改めて学ばせていただく場面が多くありました。また、経済的にも日本に近い

国でもあり、派遣と受入を交互に実施する相手国としては適切であると感じました。

＊最後に

本事業については、邊見先生、須賀さんをはじめ多くの方からお力添えをいただき、無事終了することができました。私自身、至らない点も多くあったかと思いますが、派遣団員と共に進める中でたくさんの学びや気づきがありました。また、事前研修、シンガポール派遣、事後研修と JRC メンバーが徐々に変化して行く姿を間近で見ることができ、これからの青少年赤十字活動や赤十字運動へのかかわりが楽しみです。青少年係の担当として、また赤十字の職員として、JRC メンバーをこれからも見守りつつ、積極的に赤十字運動にかかわってもらえるように働きかけをして行きたいと思います。

最後にリーダーシップ・トレーニング・センター等で多忙な時期に派遣団の一員として参加する機会をいただき、感謝申し上げます。繰り返しになりますが、この交流事業を通して得た学びを、今後の業務に生かしていきたいと思っております。

平成 31 年 1 月
日本赤十字社神奈川県支部
青少年・ボランティア課
青少年係長 内田 直人